

～ 令和4年度都立高校入試の平均点を振り返る ～

6月下旬に、東京都教育委員会から『令和4年度都立高校入試に関する調査報告』が発表されました。下表は教科別平均点です。平均点が増加した科目としては、数学で+5.7点、英語で+7.0点、理科で+13.6点でした。平均点が減少した科目では、国語で-3.7点、社会で-5.4点でした。平均点が一番低い社会、平均点が一番増加した理科についてそれぞれその要因を分析してみました。

教科別平均点

教科	国語	数学	英語	社会	理科
令和4年度	68.8点	59.0点	61.1点	49.2点	61.4点
令和3年度	(72.5点)	(53.3点)	(54.1点)	(54.6点)	(47.8点)

【社会】

〔問題構成の変化〕

昨年は、大問1の小問が4題、大問5の公民の問題が3題でしたが、今年は、大問1が小問3題、大問5の小問が4題という例年通りの問題構成に戻りました。今年の大問正答率に注目すると、全体的に正答率が低いですが、特に低いのは大問2、3、6の3題でした。

〔大問2〕世界地理

雨温図・都市の特徴・輸出入品目や貿易国等の資料を活用して世界地図から該当する国や都市を選ばせる問題が主に出题されています。問2は4問完答式、問3は資料に該当する国だけでなく、その国からの日本への主な輸入品目と輸入額・その国からの輸出額が多い上位3位までの貿易相手国を選ばせる2問完答式の問題が出题されました。問題が難しいだけでなく、完答式であることが正答率を下げる一因と考えられます。

〔大問3〕日本地理

日本地理の問題も世界地理と同様に都市の特徴・産業についての資料をもとに日本地図から該当する都道府県や都市を選ばせる問題が近年出题されています。問2問3ともに今年は与えられた資料が海岸線や工業に関するものでしたが、解くためのヒントが教科書の隅に載っているような内容で正答率が下がったと考えられます。

社会の問題別正答率

大問	小問	小問正答率		大問正答率	
		R 3	R 4	R 3	R 4
1	問 1	64.8%	81.2%	80.6%	68.0%
	問 2	75.1%	54.1%		
	問 3	88.7%	68.6%		
	問 4	94.0%			
2	問 1	31.1%	52.9%	29.2%	36.5%
	問 2	33.2%	28.3%		
	問 3	23.2%	28.5%		
3	問 1	47.8%	25.9%	60.4%	35.6%
	問 2	57.8%	11.7%		
	問 3	75.8%	69.3%		
4	問 1	52.2%	26.1%	37.3%	42.7%
	問 2	24.3%	54.2%		
	問 3	32.0%	40.9%		
	問 4	40.6%	49.7%		
5	問 1	70.9%	42.8%	61.2%	48.0%
	問 2	68.0%	54.7%		
	問 3	44.8%	54.5%		
	問 4		40.3%		
6	問 1	19.6%	36.7%	27.8%	30.0%
	問 2	19.1%	16.7%		
	問 3	44.7%	36.4%		

〔大問6〕地理・歴史・公民の総合

問1は例年通り、近現代の歴史の並べ替えが出題されました。並べ替えなので、与えられた情報が一つでも活用できなければ手に負えなくなってしまうので、正答率が低くなったと考えられます。(大問6の問1はここ5年間正答率が20～30%台とずっと低いです。)問2は歴史的背景が書かれた資料からアメリカの都市であることを読みとらなければいけない問題でしたがその資料からアメリカと判断するのが難しく、またアメリカとわかってても該当する都市をさらに地図から選ばなければならず、細かな知識が必要でした。

【理科】

〔問題構成の変化〕

今年は昨年と比べ、問題構成に変化がありました。大問1の小問が6→5題になり、代わりに大問4の植物の問題が3→4題となりました。その影響はあまり無かったようで大問1と4の正答率に大きな変化は見られませんでした。正答率の変化が大きかったのは大問2、5、6の3題でした。

〔大問2〕日常生活に関わる問題

昨年は計算を必要とする問題が3題出題されていたのに対し、今年は計算ではなく、思考問題が出題されました。計算力がためされなくなった分、正答率が上昇したと考えられます。

〔大問5〕化学分野

昨年は中2の化学変化・質量に関する問題でしたが、今年は中3のイオンに関する問題でした。昨年の正答率は全体的に低く、割合の計算問題である問4は正答率が1桁という難しい問題でした。今年は計算問題が出題されず、中3で学習した標準レベルの問題が多く正答率が上昇したと考えられます。

〔大問6〕物理分野

昨年は中2の電磁気に関する問題が出題されましたが、今年は中3の物体の運動に関する問題が出題されました。昨年は電磁誘導についての記述に加え、直列回路・並列回路の思考問題・モーターの仕組み等難問が続いていました。しかし、今年は化学分野と同様に中3で学習した単元の標準レベルの問題が出題されたため正答率が上昇したと考えられます。

【来年の入試にむけて】

今年は社会の平均点が特に低かったので、来年の入試では社会が易化することが予想されます。しかしあくまでも予想でしかないのでしっかりと知識をつけ、資料を活用して解く方法にも慣れ、万全の状態試験に臨めるようにしていきましょう。特に80点以上を目指す人は、近年細かな知識を必要とする問題が増えてきているので教科書の細かな資料等もチェックしておきましょう。

理科の問題別正答率

大問	小問	小問正答率		大問正答率	
		R 3	R 4	R 3	R 4
1	問 1	43.0%	64.0%	53.1%	51.6%
	問 2	72.8%	52.1%		
	問 3	56.9%	44.1%		
	問 4	40.2%	45.8%		
	問 5	48.4%	52.2%		
	問 6	57.2%			
2	問 1	43.6%	44.0%	37.9%	52.9%
	問 2	39.0%	39.6%		
	問 3	19.0%	72.6%		
	問 4	50.0%	55.4%		
3	問 1	42.0%	42.9%	44.1%	48.9%
	問 2	62.6%	63.1%		
	問 3	39.1%	51.8%		
	問 4	32.8%	37.8%		
4	問 1	78.1%	71.0%	59.8%	59.8%
	問 2	45.5%	55.4%		
	問 3	55.8%	44.0%		
	問 4		68.6%		
5	問 1	36.4%	67.3%	25.1%	47.3%
	問 2	33.7%	41.3%		
	問 3	23.8%	39.6%		
	問 4	6.3%	40.9%		
6	問 1	31.7%	68.1%	20.9%	59.1%
	問 2	22.5%	46.8%		
	問 3	27.8%	64.9%		
	問 4	1.5%	56.4%		